

つばさ

地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構
神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町2丁目1-1
TEL 078-594-2211
FAX 078-594-2244
<http://kobe.jcho.go.jp/>



歯科口腔外科

当科では、親知らずの抜歯など「口腔外科手術」と、「ご病気のある方の歯科治療・口腔ケア」を2本柱として診療を行っております。「口腔外科手術」は、局所麻酔下で行う外来通院の場合と、入院していただき全身麻酔下で行う場合があります（入院期間は概ね1～3日）。「ご病気のある方の歯科治療・口腔ケア」は、脳神経疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、腎臓病等の入院患者さんを対象とする場合や、手術、化学療法を受けられる患者さんを対象としており、患者さんの数も年々増えてきております。また、骨粗鬆症のお薬（ビスホスホネートなど）を服用されている患者さんにとって口腔管理が大切ですので、他の病院やクリニックからの歯や顎のチェック目的でのご紹介もお受けしております。

様々なご病気の入院患者さんの歯科診療を行っていますが、病状によっては入院中だけでなく退院後も歯科にかかることが望ましい方も多く、訪問歯科診療を含めた歯科の引き継ぎをできるだけ進めております。なお、引き継ぎはまずかかりつけ歯科医院にお願いするのですが、無い場合は患者さんのニーズにあった歯科医院（神戸市北区歯科医師会所属）をご案内し、ご紹介させていただいております。

また当科では附属老健施設での口腔内検診やミールラウンド、訪問歯科診療も行っており、介護歯科連携にも今後さらに力を入れていきたいと考えております。

現在、歯科医師3名、歯科衛生士4名（内2名休職中）、歯科助手1名、受付1名の計9名で外来業務を行っております。当院での診療だけでなく、北区歯科医師会と共に地域包括ケアの一端を担う口腔管理体制の充実に貢献したいと考えておりますので、お気づきの事やご要望がございましたらお気軽にお声かけください。

医長 松本 耕祐



さとう耳鼻咽喉科クリニック

〒651-1245 神戸市北区谷上東町1-1 谷上SHビル(谷上駅) 1階

TEL 078-582-8749

診療科目：耳鼻咽喉科 頭頸部外科

診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前診	9:15~12:30	●	●	×	●	●	●	×	×
午後診	15:30~19:00	●	●	×	●	●	×	×	×



佐藤 友厚 先生



平成15年11月に開業し、1. 無痛の処置 2. 内視鏡で鼓膜観察・供覧 3. 病状に関して十分かつ分かりやすい表現で説明 をモットーに現在に至っております。病状説明に関しては、残念ながらネットでさまざまな評価を受けており、現状打開のためネット活用が重要と認識、現在ホームページ作成等を進めております。可及的なコロナ対策、アイチケットによる当日の順番予約をしております。CT設置しており、主に副鼻腔炎・後鼻漏・湿性咳嗽等の診断に活用しております。上咽頭炎に対する上咽頭擦過療法（塩化亜鉛溶液塗布）も施行しております。（I g A腎症などに対する効果も期待されております。）

神戸中央病院には、主に耳鼻咽喉科で 1. 扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎、深頸部感染症等の重篤な感染症 2. 中耳炎、副鼻腔炎等の手術適応例 3. 突発性難聴や顔面神経麻痺の重症例 4. 急性難聴のコントロール困難例 等をお世話になっております。特に手術症例に関して満足な結果を出していただいております。脳神経外科 眼科 歯科口腔外科 内科等にも患者さん、自身の家族もお世話になっております。まだまだ先行き不透明なコロナ禍ではありますが、今後ともよろしくお願いたします。

当院における医療被ばくの低減に対する取組について

当院では患者さんに安心して放射線診療を受けていただくために、検査ごとの放射線量の見直しや、検査ごとの被ばく量の計算等を行い、日本診療放射線技師会が行っている「医療被ばく低減施設」を受審して2020年6月に認定されました。

病院での放射線被ばくには、医療スタッフが放射線業務を行った際に受ける「職業被ばく」と、患者さんが放射線を用いた検査で受ける「医療被ばく」があります。医療スタッフが受ける「職業被ばく」には法律でこれ以上放射線を浴びてはいけない量が決められていますが、患者さんが受ける「医療被ばく」には病気を見つけるという大きなメリットがあるので、法律でこれ以上放射線を浴びせてはいけない量は決められていません。

同一目的の同一検査においても各施設によって放射線量（被ばく量）が異なります。そのため、日本では2015年に診断参考レベル（DRL）が公表され2020年に更新されました。DRLとは、各施設が最適化（必要最小限の放射線量で検査を行う事）のために取り組む参考値です。当院ではDRLの値を参考にして、病気の診断に必要な線量を出来るだけ少なくなるように設定しておりますので、どうぞ安心して検査をお受けください。

また、「被ばく相談窓口」を設けておりますので、医療被ばくに関して不安や不明な点がございましたらご相談ください。



当院の栄養指導について

副栄養管理室長
糖尿病療養指導士
谷田 千展



栄養管理室では、当院の医師からの依頼を受け、糖尿病や腎臓病、心臓病など、様々な疾患に対して個人栄養指導を行っています。

食塩の取り過ぎは、血圧を上げ血管に負担をかけるだけでなく、腎臓や心臓にも負担を招くことから、健康な人でも高血圧症の予防として、国も食塩摂取量を減らす事を重視しています。2020年版の日本人の食事摂取基準の塩分量では、成人男性1日7.5g未満、女性6.5g未満となり、高血圧治療ガイドライン2019年の1日6.0g未満とかわらないくらい厳しくなっています。生活習慣病である、高血圧症、糖尿病、脂質異常症などは、患者数が年々増えており、食事の摂取量、内容、時間などの食生活の改善が、治療の一環として重要と考えています。

そのため、個人栄養指導は基本予約制ですが、糖尿病内科医の指示のもと、火曜日と水曜日の午前中のみで、外来診察した当日に予約なしで指導が出来る取り組みを開始しました。現在は、この週2日間の午前中のみで、指導枠も少ないですが、診察と同日に栄養指導が可能となり、患者様のニーズに少しでもお応えできればと思っています。



疾患や病状によって、指導内容は異なりますが、食生活に沿った栄養指導を心掛け、調理のコツ、調味量の選び方など、食事で工夫出来ることを提案し、継続できるようにサポートしていきたいと思っています。

食事でお困りの方は、主治医を通してご相談下さい。

Bブロック 10診で火曜日と水曜日の午前中に個人栄養指導を行っています。

訪問看護ステーションにおける看護実践

1998年開設以降、「利用者、家族の意向に沿った支援」をモットーに、疾病や障害を抱えながらも住み慣れた地域でその人らしく生活することを支援しています。2017年には、機能強化型訪問看護ステーションとして、重症度の高い療養者の受け入れと在宅看取りの支援を積極的に行う役割を担い、24時間365日ケアを継続する看護の拠点として活動しています。

近年、在宅酸素や点滴などの医療処置、終末期の緩和ケアが必要な状態で在宅療養を希望される療養者は増えています。在宅療養の開始に向けては、病棟部門、外来部門、入退院支援係りと継続が必要な医療処置や看護ケアの共有をしています。在宅では、退院当日から訪問看護が可能であり、重症度の高い方は退院日時に合わせて訪問し、退院に伴う負担や不安の軽減に努めています。

終末期においては、休日も含め毎日訪問看護が可能であり、日々のカンファレンスで病状の変化を予測しながら苦痛や不安の緩和に努めています。又、心身の状態の変化に応じて療養者、ご家族、医療ケアチームで話し合える場を作り、今後の療養について本人が意思決定できるよう支援しています。

在宅で最期まで過ごしたいと希望される療養者は年々増えており、当ステーションの在宅看取り件数は年々増加しています。住み慣れた自宅でのご家族との生活は療養者の安穏となり、最期まで穏やかな表情で立派に生き貫かれる姿がとても印象的です。今後も「家で過ごせて良かった」と思ってもらえる質の高い看護の提供に努めていきたいと思えます。



当院が一時脳卒中センターコア施設に認定されました

脳梗塞は高い確率で麻痺などの後遺症を生じる疾患でしたが、血管内再開通療法（rt-PA静注療法と血栓回収療法）の登場により、劇的な症状の改善を見込める疾患となりました。rt-PA静注療法は静脈内に血栓溶解薬であるrt-PAを投与する治療で、発症後4.5時間以内に治療が開始できる場合に治療適応となります。血栓回収療法はステントや吸引カテーテルを用いて血栓を回収する治療法で、24時間以内に治療が開始できる場合に治療適応となります。血栓回収療法に用いる機器と技術の進歩は目覚ましく、最近の報告では80%を超える再開通率が得られ、発症後3か月に日常生活が自立する人の割合は40%を超えています。当院では2020年にrt-PA静注療法12例、血栓回収療法25例を行っており、血栓回収療法の再開通率は95%でした。

血管内再開通療法は発症からの時間が早いほど治療効果が高く、時間が経過し脳梗塞が完成すれば、適応時間内であっても治療を行えません。脳梗塞発症後、少しでも早く血管内再開通療法を行うことができる病院に受診することが非常に重要です。

日本脳卒中学会は、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、rt-PA静注療法を行うことができる施設として一次脳卒中センター(PSC)を全国974施設で認定し、当院は2020年4月に認定されております。さらに、血栓回収療法を24時間365日行うことができPSCの中でも中心的な役割を果たす施設としてPSCコア施設を全国230施設で認定し、当院は2021年4月に認定されました。

当院は脳神経外科医5名で24時間365日、急性期脳卒中に対応できる体制をとっています。スタッフには脳血管内治療専門医2名、脳卒中専門医2名、脳神経外科専門医3名が在籍しており、緊急でrt-PA静注療法や血栓回収療法、脳神経外科手術を行うことができます。当院では周辺地域で発生した急性期脳卒中を可能な限り受け入れ、血管内再開通療法を含む適切な治療を行うことで、脳梗塞発症後も自立した生活を送ることができる患者さんをひとりでも増やしたいと考えています。

